

元農学部教授 島崎洋路先生（1994年退官）が、第14回信毎賞を受賞されました。本賞は、信濃毎日新聞創刊120周年を機に1994年に創設され、文化、社会、教育、産業、スポーツなどの分野で著しい功績を挙げた県関係の個人、団体に贈られます。島崎先生は、独自の間伐技術「保残木（ほざんぼく）マーク法」を発案、県内外での普及に努めるとともに、「島崎山林塾」を主宰するなど、長年にわたって山を手入れする職人「山守」の育成に当たってきた功績が評価され、今回の受賞となりました。

7月5日（木）、ホテル国際21（長野市）において、贈呈式が行われました。

島崎元教授受賞の一言

「この賞は功労賞としてではなく、奨励賞としていただけたと思っています。周りの方々がみな喜んでくださって、本当にみなさんのバックアップがあったおかげだと思いました。年齢でもありバリバリというわけにはいきませんが、仲間がいますから、気力・体力が続く限り、共に頑張りたいと思います。林業をとりまく状況は大変厳しく、ここで気を抜くわけにはいきません。少しでも、持っているノウハウを活かして役に立ちたいと思います。」



写真：

（上）贈呈を受ける島崎元教授

（下）島崎洋路元教授（右から二人目）